

バイブルスタディ Pastor JD Farag (2018.07.15)  
エペソ人への手紙 5:25-33 「夫よ、妻を愛しなさい」

.....

エペソ人への手紙、5章25節から33節。

聖霊によって使徒パウロが書いています。

25 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を献げられたように、あなたがたも妻を愛しなさい。

26 キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、

27 ご自分で、しみや、しわや、そのようなものが何一つない、聖なるもの、傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。

28 同様に夫たちも、自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する人は自分自身を愛しているのです。

29 いまだかつて自分の身を憎んだ人はいません。むしろ、それを養い育てます。キリストも教会に対してそのようになさるのです。

30 私たちはキリストのからだの部分だからです。

31 「それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。」

ところで、これは興味深い言葉で、訳によっては“くつつく”という言葉が使われており、“溶接する”という意味が含まれています。

32 この奥義は偉大です。私は、キリストと教会を指して言っているのです。

33 それはそうとして、あなたがたもそれぞれ、自分の妻を自分と同じように愛しなさい。妻もまた、自分の夫を敬いなさい。

33 それはそうとして、あなたがたもそれぞれ、自分の妻を自分と同じように愛しなさい。

ここまでは、全て夫に対してです。

そして妻には、「妻もまた、自分の夫を敬いなさい。」

これだけ。これが、パウロが妻に対して言う全て。

『夫を尊敬する』これだけで十分明白です。

では、祈って終わりましょうか。(笑)

祈りましょう。

愛する天のお父様、真理のみことばを、特に今日、与えられているみことばを、正しく分かち合うことができるように導いて下さい。

あなたはご自分の教会である私たちにいつも誠実で、あなただけが、私たちがみことばを理解することを祝福して下さるお方ですから。

イエス様の御名によって祈ります。

アーメン

妻が言ってくれたのですが（笑）、皆さん、なぜ笑うんです？

まだ、彼女が何と言ったか話してませんよ。

妻は、「これをいくつかに分けてシリーズ化して、夫が妻を愛することを教えるのがいい。」と提案してくれました。

夫の皆さん、いいですか？ 帰ることはできませんよ！

セキュリティがフロントドアをロックしているので、神が私たちのために用意したことが終わるまでは出られません。

私は結婚式の時はいつも、聖書からこのみことばを用います。

なぜなら、“夫が妻を愛する”責任と言ってもいいでしょうが、その重要性のためです。

結婚式の間、私は、パウロが夫に九つの節（25-33節）の中で3度、妻を愛するように言っているのを指摘したいのです。

妻に対しては、たったひと言、数えましたが7語、それも33節の中のほんの後ろ半分。

夫に全て語った後に、妻には、「夫を尊敬するように。」

ですから、夫として感謝すべきことに、パウロは、妻を愛する方法と、そして、恐らくもっと重要なことは、その方法でどうやって妻を愛すべきかを聖霊によって説明してくれているのです。

まず初めに、“夫は妻を愛すべきである。”

ところで、どのように妻を愛すべきかを完全に理解したら、私たちの本性では、それは不可能だと思えてきます。

なぜそうなのかを説明しましょう。

新約聖書はギリシャ語で書かれていて、“愛”を現わす言葉は4つあります。

英語では“LOVE”の1つだけ。

ギリシャ語の4つの“愛”

- ① “エロス” エロティックな愛。肉体的、官能的、性的な愛。
- ② “ストーゲイ/ストルゲ” 子供が親に、親が子供に持つ自然な思いの愛。
- ③ “フィリア” 兄弟愛。フィラデルフィアの町の名前になったのですが、人に対する愛。

これらは、① I love my wife ② I love my children ③ I love my brother に当たりますが、英語では“love”の違いが実質的にはありません。

ギリシャ語では、①妻を官能的に愛する。②子供たちを自然な思いで愛する。③人を兄弟愛で愛する。

異なる種類の愛ですね。違いが分かると思います。

そして④、パウロがここで、“妻を愛する言葉”として使っているのは“アガペ”これは“無条件の愛”。

私たちがまだ罪人だった時に、神が愛して下さった愛です。

**神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。(ヨハネ 3:16)**

これが無条件の愛で、必須条件はなく、また、何の見返りも求めません。

何があったとしても、ただ無条件、その愛なのです。

しかし問題は、アガペの愛を理解すると、到底達成できないかのように考えがちになるということ。

ですが本当は、これは夫が努力して達成できる愛です。

その理由は次の通り。

アガペは、使徒ヨハネが、この世とこの世のものを愛することに関して使っているのと同じ言葉です。

*あなたは世も世にあるものも、愛してはいけません。なんと、ここがアガペです。*

*もしだれかが世を愛しているなら、その人のうちに御父の愛はありません。*

*すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢は、御父から出るものではなく、世から出るものだからです。世と、世の欲は過ぎ去ります。*

*しかし、神のみこころを行う者は永遠に生き続けます。(Iヨハネ 3:15-17)*

アガペはヨハネだけではなく、救世主ご自身も使いました。

もっとも有名なみことばの一つです。

*神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。(ヨハネ 3:16)*

*御子を信じる者はさばかれない。信じない者はすでにさばかれている。神のひとり子の名を信じなかったからである。*

*そのさばきとは、光が世に来ているのに、自分の行いが悪いために、聞いて下さい、人々が光よりも闇を愛した(アガペ) ことである。(ヨハネ 3:18-19)*

なぜ、これを指摘するのかと言うと、私たちがこの種の愛を世と世のものに対して持てるなら、妻にも持てるということだからです。

だけど聖霊がないと、このように、アガペの愛で妻を愛せるという望みは夫にはありません。

これが最も重要である理由は…

理解して欲しいのは、パウロはここで、“聖霊に満たされる” ことについて話しているということ。

数週間前に話しましたが。

彼は、「妻をどのように愛するかは、聖霊に満たされる、つまり、聖霊のバプテスマによる」ことを言い表していて、それこそが根本理念と真理なのです。

そこでもう 1 度言います。皆さんはもう聞き飽きたかもしれませんが。

聖霊に満たされていないなら、夫がこのように妻を愛せるとい望みは全くありません。

あなたがどんなに必死に頑張っても、それはない。

聖霊が私たちに力を与え、できるようにしてくれるのです。

これが、いかに愛するかということです。

それを理解した時に、聖書にもっと取り組むことができるようになりますよ。

パウロは、妻を愛するための 3 つの異なる方法を言いました。

第 1。キリストが教会を愛し、教会のために自分自身を与えたように愛する。

ちょっと面白いことですが、私は結婚式の司式をする時、新郎を少し困らせます。

私がみことばを語ってメッセージをしている間、新郎はただ美しい新婦を見つめていて、新婦も新郎の目を見つめている…

そこで彼を見て、「私を見なさい。」 彼が私を見たら、「聞きなさい。」

彼が聞くと、「どうやって、彼女をそのように愛するのですか？」と尋ねます。

「キリストが教会を愛し、教会のために自分自身を与えたように愛する」これは、結構難しい命令ですよ。あなたはどのようにするつもりですか？」と。

最近あったノースショアでの結婚式。

新郎が私を見て、「私は言われたように、彼女を本当に愛します！」と言いました。

でも、「おお！ どうやって!?!」

それは聖霊によるのです。

聖霊は、私たちが、聖いみことばを行うことを可能にする唯一の道なのです。

キリストがどんなに教会を愛しているか。

そう、誰かのために命を捨てる以上に、偉大な愛はありませんね。(ヨハネ 15:13)

イエスは教会を大事に思い、彼の教会を愛し、彼の教会のために自分自身を与えました。

これが、パウロが言っている、“夫として妻を愛する”ということです。

第2。自分の体を愛するように妻を愛する。

わお！ みんな、自分がどんな風に見えるかに興味がありますよね。

外を歩いていて、ショーウィンドーに映る自分の姿を見てウツトリし、また写真を撮って人に見せたり、誰かをタグしたりして、みんな自分に興味があり、自分がどう写っているかチェックしていませんか？

いいですか。私たちは自分の体は大切にします。

神よ、服を着ていることを感謝します！

朝起きて鏡を見、「以前はもっとあったのに。」と嘆きながら、そんなくない髪を整えて髭を剃る。

このように体を大切にし、いたわります。特に今言った部分をね、いたわる。

また、体を養います。

とりわけ、プライムリブ・ステーキが出て来た時にはそうですよ。でしょ？ でしょう。(笑)

これが、イエス様が、私たちに夫として求めていることであり、パウロが、「自分の体を愛して大事にするように妻を愛しなさい」と熱心に勧めていることなのです。

第3。第1と第2が合わさったようなもの。自分自身を愛するように妻を愛する。

どういう意味？

これは、最も重要な律法の戒めではないですか？

全ての律法を要約しているのが、『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。』(マタイ 22:36-40)

だけど、それ以上の意味があると私は思います。

単に妻を愛するのではなくて、あなたが自分自身を愛しているなら、愛しているから、自分を愛するように彼女を愛する。

言い換えるなら、もし、あなたが妻をこのように愛するならどうなると思いますか？

「妻が幸せなら人生幸せ」「ママが幸せでないなら、誰も幸せではない」でしょう。

妻がこのように愛されると、その恩恵を得るのは夫です。

これは、神が造られた最高の結婚の形であり、神が意図する結婚だと思えます。

もし、夫が自分自身を愛するなら、妻をそのように愛すべきです。

なぜなら、そのように妻を愛した時、私たちは愛の恩恵を受けるのですから。

神は妻たちを、そう応答するように造られたのです。

あまりにも単純すぎるかもしれませんが、これは私が信じていることであり、また、ホントに美しい妻と 30 年間結婚している私個人の経験であるということも分かっています。

彼女は第 2 礼拝に出席しないので、私は言いたいことが言えるんですよ。

とにかく長年の経験によると、夫が自分自身を愛するように妻を愛するなら、数々の結婚生活の問題は減っていきます。

愚かなように聞こえるのは分かっていますが本当です。

結婚の全ての問題と言っているのではありませんよ。

皆さん、正直になりましょう。完全な結婚なんてありません。

だけど、本当に素晴らしい結婚生活が送れるのです。

結婚生活の問題は通常、表面的ですが、問題の全ての層を剥がしていった時に中心部に見つけるのは、神が意図した方法で妻を愛さない夫たち。

だから妻は、神が彼女に、夫に対してそうするようにと意図した応答ができないのです。

それは良い結婚ではありません。それどころか、大変悪い結婚です。

言葉で言うなら、悲しいですがご存知の“離婚”です！

ここで、正直に、真剣になりましょう。

クリスチャンの結婚に関する統計は、未信者とまさに同じなのですよ！

この話はしたくありません。非常に心が痛みます。

覚えていて欲しいのは、あまり良い言い方ではないけれど、これはサタンの性質の一つで、サタンは結婚を憎んでいるということ。

結婚が象徴していること・・・花婿なるイエス・キリストと花嫁なる私たちの関係の縮図・・・のゆえに。

私たちはキリストの花嫁です。

だから、サタンは結婚を憎んでいるのです。

再度同じことを、違った方法で言わせて下さい。

今日、皆さんはここに、自分たちの結婚生活の問題を抱えて来たでしょう。

私は皆さんに、へりくだってお話します。

皆さんが夫としてこのやり方で妻を愛するなら、それらの問題はなくせるのです。

その責任が、あなたにはあります。

そうです。

妻がこのように愛されるなら、彼女は従順になり、夫を尊敬するようになります。

なぜなら、またこんな言い方をするのを許して欲しいのですが、神が妻を、そうやって応えるように造られたのですから。

しかし、問題があります。よく注意して聞いて下さい

私は本当に、このことをとことん考え抜いたのですが、ここに、そうここに、問題があるのです。

妻は、「彼が私を愛するまでは、尊敬しない！」

夫は、「彼女が僕を尊敬するまでは、愛さない！」

Ok. では、そのやり方でどうなっていますか？

手を挙げなくて結構ですよ。もう分かっていますから。私がそうやっていたのです。

問題は“プライド”

問題は、プライド以外の何ものでもない。

愛を込めて言いますが、私自身、苦勞してこのことを学びました。

それを証明する傷跡もあります。

これについて聞きたいなら、妻に聞くことができます。第2礼拝で。

プライド。

まさにプライドが、結婚が破綻する原因です。

人生の次の章を書くことになってしまうということがあり得るのです。

「オレがこの家の長だ！ 家の中で主導権を握っているのはオレだ！ 妻はどっちが主（あるじ）かなんてさえ言わない！」

「私が頭だ！ 彼女はどっちを向くかを言う首ですらない。」

「私が家の中心だ！ 彼女は何かしら尊敬を払うべきだ！ 私がリーダーなんだから！」

いいでしょう。あなたがリーダーなら、まず謙虚になったらどうですか？ 違いますか？

他の全てに主導権を握りたいのなら、例を挙げるとすれば、あなたは、リーダー、霊的リーダーとして、へりくだって先導すべきなのかもしれません。

つまり、どう見えるだろうかということです。

ところで、結婚生活で対立した時、感情的に主張したり、叫んだりというのは、皆さんにはしてほしくありません。それは良くない。

あなたが奥さんと喧嘩したり争ったりする時、その熱はどうすれば引くでしょう？

男性の皆さん、率直に言いますね。

へりくだって、奥さんに言うのです。

「あのね…私が間違っているんだ。キミが正しいよ。」

「ナニ!?」「ちょっと待って!」「何かのトリック?」「どういう意味?」

言いたいのは、奥さんが十字架を仰ぐ前に、あなたが先に十字架の下に行くということ。

ある時、結婚について教えていて、「私はいつも彼女を beat していた」と話してから息継ぎをしたのですが、そのタイミングがまずかったことに気づきました。(笑)

だって、みんなが恐ろしい形相で私を見たから。

「彼は奥さんを叩いて (beat) いた!!」

私は、「いつも妻より先に (beat) 十字架の下に行っていた！」と言おうとして、まずいところで息継ぎをして、唾をのんでしまったのです。あれは良くなかった。

「十字架に行くのを、妻に先を越されなくなかった」と話したかったのですけど。

私が先に十字架を仰ぎたい。へりくだって。

箴言には、はっきり書いてあります。

**高ぶりが来れば、辱めも来る。知恵はへりくだる者とともにある。(箴言 11:2)**

ああ、私たちは夫としてどれだけ愚かなのでしょうか。

もう1度いいますが、責任は私たちにあるのです。

夫の皆さん、謙虚になって下さい。

ここが核心です。

**25 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のために (霊的リーダーとして) ご自分を献げられたように、あなたも妻を愛しなさい。**

**26 キリストがそうされたのは、みことば (レーマ) により、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、**

26 節の『みことば』は、ギリシャ語で『Rhema/レーマ』、神から語られたみことばです。

『Logos/ロゴス』は書かれたみことば。

結婚生活で、コミュニケーションの中で、霊的リーダーとして神のみことばを語り、みことばを大切にします。それが私たちです。

みことばによって洗われ、清められ、覆われている。

これが、霊的覆い (カバー) です。

自分を愛したり、ケアしたり、体に必要なものを提供したりするのと同じ方法で、妻を覆い、愛し、そして主は別にして、妻をあなたの人生の中で最も大切な人とするのです。

「先生、それはどこから与えられたのですか？」

“離れ、結び合う” からです。

中東では特に、父親が子供の人生に最終的な権限を持っています。

たとえ成人した子供であっても。

子供が結婚する時は、両方の父親と母親から、親の権限から離れなければなりません。

なぜなら、彼らは、両親を含む他の全ての人間関係に取って代わって、妻/夫と結び合うからです。

これに関して、牧師として結婚カウンセリングをしている中で実際にあった話を手短にしましょう。

その夫が言うには、「妻が、私と十分な時間を過ごしていないと言うので、私はゴルフにも行けないし、あれもこれもできません。」

聖書から教えてきたことの一つですが、妻が、「私は夫にとって一番大切なのだ」と分かり、守られているなら、あなたがやりたいことをさせてくれるでしょう。

彼女は安全に守られているので、自分の立ち位置と、どんなに大切にされているかが分かります。

もし守られていないなら、あなたが自分から離れ、時間をどう過ごしているのかと辛くなるのです。

しかし、神が言った通り“彼女とくっついて” いるなら、「私は夫の人生で最も大事な存在だ」と分かって安心する。

ですから、私たちが自分自身を愛しているなら、そのように妻を愛し、尊重しましょう。

そうすれば、妻は抑えきれなくなって、喜んで従順になり、夫を尊敬するようになるのです。

それが妻たちの反応です。

これは、まず夫が妻をどう愛するのかに比例する、とさえ言えるでしょう。

私は“抑えきれない”という言葉を用いました。

それは、もう1度言いますが、神が妻をそのように造られたからです。

へりくだって伝えたいのは、そうするかしないかで、結婚生活が違ったものになるということ。

地上の地獄か、地上の天国。どちらか。それは全く違うものです。

そして、これを導く責任は夫にあるのです。

ある話をして終わらしましょう。

1980年代に初めて聞いたもので、夫が妻を愛する愛についての美しい手本、実話です。

題名は「Jonny Lingo's Eight Cow Wife」

1988年にリーダーズダイジェストに掲載されたのですが、原作は1965年、パトリシア・マクッガー著。こんな話です。

美しい島での楽しい時間。太平洋キニワタ島への旅を、私は忘れることができない。

その中で最も記憶に残っているのが、ジョニー・リンゴが妻のために8頭の牛を差し出したことだ。

私は、妻が夫を見くびったり、軽蔑するのを見るたびに、その出来事を思い出す。

そういう人たちには、ジョニー・リンゴが妻のために8頭の牛を渡した理由を知るべきだと言いたい。

ジョニーの才能と聡明さ、知性は島中に知られていた。

彼をガイドで雇えば、釣りの最高のスポットや真珠が採れる最良の場所に連れて行ってくれる。

また、彼はその島で最も仕事ができる一人で、最高の取引を成立させることができた。

キニワタ島の人々は全員、ジョニー・リンゴが大好きだけど、彼のことを話す時は、少し嘲った感じで笑うのだった。

キニワタ島に到着して2-3日後、ゲストハウスのマネージャーに、釣りの良いガイドは誰かを聞くと、「ジョニー・リンゴだ！彼が最高だよ！買い物に行っても、交渉させたらどんなに上手いか。

少年をやジってもその子は笑いを返してきて、『ジョニーはすごくいい取引をする』と言うんだから。」

一体、何なのだろう？

誰もがジョニー・リンゴに会うように言うし、その上、みんな笑い出すのだ。

〈みんなが笑うワケを教えて下さい。〉

するとマネージャーは、「みんな、笑いたいのさ。」と肩をすくめながら、ジョニーが聡明で強い若者であることを話してくれた。

彼が、その年齢では非常に金持ちだということも。

でも、そんなに良く言うのに、なぜ、誰もが陰で彼を笑うのか。

「5ヵ月前の秋祭りの時、ジョニーはキニワタ島に来て、妻にする女性を見つけたんだ。

それで彼は、彼女の父親に8頭の牛を渡した。印象付けるには十分さ。

島の習慣では、普通の妻を得るためには2-3頭の牛、とても素晴らしい妻を得るなら4-5頭の牛を渡すんだから。」

〈すごい！8頭の牛！その女性は息をのむほど美しいんだろうね。〉

マネージャーは少し微笑みながら、「みにくくはない。でも分かり易く言うと、それはお世辞だ。」

〈何だって？〉

「事実、彼女の父親のサム・カルーは、困惑するよりも二人の結婚生活がダメになるのでは、と恐れていたんだ。8頭もの牛を娘に貰ったんだから。」

やりすぎではないけど、あんなに払われたことなんてないからね。

ジョニーの妻は、普通の質素な女性っていうか…いや、それはお世辞だと言っておくよ。

彼女はやせっぽちで、肩を丸め、頭を引っ込めて歩くんだ。自分の影を恐れているのさ。

まあ、愛の代価ではないと思うよ。全くのところ。」

島の人たちがジョニーについて話す時に笑う理由がよく分かった。

島一番の賢い仕事人が、鈍くて年老いたサム・カルーに負けたという事実に、彼らは特別な満足感を持っているのだ。

しかし、みんな不思議には思っているが、誰も（\*8頭の牛が）どういうことなのかを知らない。

（\*結婚話が出た時）「いところち全員が、ジョニーに牛3頭求めるように、だけど、彼が1頭を確かに渡すまで、あくまでも2頭要求するようにとサムをせきたてた。（\*最低額の持参金）

でも、ジョニーがサムの所に来て、『サリタのお父さん、私はお嬢さんに牛8頭を支払います。』と提案したもんだから、彼らは驚いてしまった。『牛8頭だって!?!?!』

私はジョニーに会いたくなかった。釣りもしたいし、真珠も欲しい。

だから翌日の午後、ジョニーの家があるヌラバンディ島に渡った。

ジョニーの隣人も、彼の名前を出すと面白かった。

だけど、痩せた真面目そうな若い男に会った時、みんなが彼の才能を尊敬するワケがすぐに分かった。

「キニワタ島から来たのですか？」〈はい。〉

「みんな、私のことを話したでしょう？」

私は混乱してしまった。

〈はい。あなたは私に必要なものを何でも提供できるし、聡明で、臨機応変に対応できる人で、島一番の賢い仕事人だと言っていました。〉

彼は優しく微笑んで、「私の妻は、キニワタ島出身なんですよ。」〈はい、知っています。〉

「みんなは妻のことを話していましたか？」〈はい、少し。〉

「何とっていましたか？」

ああ、なぜ、この質問が来たのか…

〈あなたが秋祭りの時に結婚したと言っていました。〉

「他には？」〈えっと…〉

彼の眉の動きは、「他にも言われているのを知っているぞ」と告げていた。

〈結婚は8頭の牛で成立したとも言っていました。〉

私は間を置いて、〈みんなは、そのことを不思議に思っていました。〉

「彼らはどうしてなのかを聞きましたか？」彼の瞳が喜びに輝いた。

「キニワタ島の誰もが、8頭の牛のことを知っていますから。」

私はうなずいた。

「ヌラバンディでもみんな知っているんですよ。」彼の胸が満足感で膨らんでいる。

「これからずっと、誰かが結婚成立の話をする時は、ジョニー・リンゴーがサリタのために牛 8 頭を支払ったことを忘れないでしょう。」

〈ああ、そうか。虚栄。見栄。それが答えなんだ！〉と思ったその時、サリタがテーブルに花を飾るために入って来て、夫に微笑み、しばらくたたずんでから出て行った。

彼女は今までに見たこともないほどの最高に美しい女性で、肩はしゃんとして、顎を上げ、瞳は輝き、全てが自信と誇りに満ち溢れている。

傲慢や横暴なプライドではなく、彼女のあらゆる行動に、自信に満ちた内面の美しさが現れているのだ。

振り向くと、ジョニーが私を見ていて、そして言った。

「彼女は素晴らしい？」

〈ゴ、ゴージャス！ みんなが話している女性ではない！ あなたが結婚したサリタじゃない！〉

「サリタは一人だけです。あなたが思っていたようには見えませんか!? 」

〈はい。彼女は不器量だと…みんなは、あなたが、自分からサムに騙されるようにしたんだと面白がっていたので…〉

ジョニーの口元から笑みが消えた。

「牛 8 頭は多過ぎると思いますか？」

〈いいえ。でも、みんなが言っていた女性と、どうしてそんなに違うのですか？〉

ジョニーは言った。

「夫になる人が、自分のために、ものすごく僅かな持参金しか払わなかったと知ったらどう感じるか、考えてみて下さい。

“自分には殆ど価値がない” というようなことを夫にされたんだ、と知るの屈辱です。

他の女性は、夫が高い持参金を支払ったことを誇りに思うのに、サリタはどう感じるでしょうか。

きっと恥だと思うでしょう。

そんなことが、私のサリタに起こらないようにしたのです。」

〈では、あなたは奥さんを幸せにするために、8 頭の牛を渡したのですか？〉

「ええ、もちろん、サリタを幸せにしたいですよ。でも、それ以上のことがあるのです。

あなたは、彼女が思っていたような女性とは違うと言いました。その通りです。

多くのことが女性を変えるのです。内に、外に起こることがね。

でも一番問題なのは、彼女が自分自身をどう見るかなのです。

キニワタ島では、サリタは「自分には価値がない」と思っていました。

自分が考えた結果の価値ですが。

今は、島のどの女性よりも、自分には価値があると分かっています。そう見えるでしょ？」

〈じゃあ、あなたは…〉

「私はサリタと結婚したかった！ 彼女は、私が愛する唯一の女性です!! 」

「だって、」私がようやく理解し始めた時、彼は優しく言った。

「私は、牛 8 頭の価値がある妻を望んでいたんですから。」

さて、夫の皆さん、あなたの奥さんたちは牛何頭分ですか？  
気をつけて。というのも、恐ろしい結果になりかねませんから。(笑)  
妻は、神様からの価値ある贈り物です。  
私は今日、皆さんの前で不要に霊的ぶったり、自慢したりしません。  
でも私には、少なく見ても牛 8 頭分、いや、それ以上の妻がいます。  
皆さんはいかがですか？

祈りましょう。  
天のお父様、みことばを、夫としての私たちへのみことばを感謝します。  
あなたの方法で妻を愛することができるように、その力が与えられるように、もう一度、新たに、聖霊で満たして下さい。  
それは、あなたにしかできないことですから。  
イエス様のお名前によってお祈りします。  
アーメン

.....

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4:7  
メッセージ by JD Farag 牧師  
カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>  
Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 Rumi